

# 会報 長事研

対馬市立東部中学校内  
発行責任者 上戸 健  
2011年9月10日発行

2011年度全事研定期総会は、7月26日鳥取市「とりぎん文化会館 小ホール」において開催されました。また、翌7月27日から7月29日の3日間、とりぎん文化会館他5会場において全国公立小中学校事務研究大会鳥取大会が開催され、全国から2016名の学校事務職員（うち長崎県から16名）が参加しました。長事研役員は森副会長・大場・宮崎両事務局次長・山口理事・柿本理事の計5名が参加しました。

今回の第49号では、全事研定期総会・研究大会の概要についてお知らせいたします。研究大会については、一部大会速報と重複する部分もありますが、今回は、分科会参加者の感想を中心にお届けいたします。

長事研第2回理事会・評議員会は8月26日（金）長崎市において開催し、長事研セミナー計画等について協議されました。内容につきましては、9月2日（金）熊本市において開催された九州内各県事務研究会役員連絡会の報告とあわせて、次回「会報長事研50号」で報告します。

## 《全事研総会報告》

東日本大震災の被害者の方々を悼む1分間も黙祷後に総会が開催されました。

檜山前会長の挨拶の中で、全国の会員に呼びかけた東日本大震災に対する救援募金が3,742,483円集まりその一部が被災地に渡されたとの報告がありました。また、今後世代交代が進む中、若手の育成が課題であるとの話がありました。

議事は以下のとおりです。

- 1 事業報告 2 決算報告及び監査報告 3 規約改正  
4 会長・副会長及び監査の選出 5 常任理事の承認  
6 事業計画（案） 7 予算（案）

会長・副会長及び監査の選出では、新たに全事研会長に横山泉氏（静岡支部）が、また、副会長・監査には以下の方々が選出されました。

副会長：田辺徹馬氏（神奈川支部） 鳥本安博氏（兵庫支部）  
武藤健壽氏（茨城支部） 小林円氏（神奈川支部）  
佐々木信夫（石川支部）

監査：恩田美佐緒（鳥取支部） 鈴木秀子（茨城支部）

規約改正については、組織の活性化を目的に、8部を1局3部へ組織を再編成することが提案されました。（8部：総務部、財務部、渉外部、広報部、組織部、研究部、研修部、調査部→1局3部：事務局、財務部、情報推進部、研究開発部へ）

本年度の学校財務フォーラム2011は、11月4日大阪市で、また、全事研セミナーは、2月17日埼玉県川口市で開催予定であることが事業計画（案）の中で提案されました。

提案された議事については、原案どおり賛成多数で可決されました。

また、そのほかには、現在全事研では、2009年度第41回福岡大会から始まった5年間の第7次研究中期計画に基づいて、研究会活動を行っていますが、その計画が終了する2014年度から新たに始まる第8次研究中期計画が発表されました。その中で、第47回2015年（平成27年）には、九州地区（熊本県）で全国大会を開催することが決まりました。

## 《全事研研究大会報告》

森田眞由美大会実行委員長の「鳥取の元気を持って帰ってもらえるように頑張りたい。」との開会宣言で研究大会が始まりました。

### ＜文科省行政説明＞

文部科学省大臣官房審議官 徳久 治彦 氏

東日本大震災に対する取り組みとして、「子どもの学び支援ポータルサイト」を立ち上げたことが紹介されました。また、これからの学校においては、「地域とともにある学校づくりの推進」がキーワードであり、地域力を学校の力にしていくために互いのベクトルからの働きかけが重要であるとの指摘がありました。

日本の学校は、8割が教員だが、欧米では、5割は教員以外のスタッフが配置されており、カウンセラー等の専門性が発揮されていて、全職員で子どもの教育にあたる「チーム教育」が発達していることが紹介されました。そして、今後、日本でも「コミュニティ・スクール」をはじめ、「学校支援地域本部事業」のように地域社会で様々な教育支援を実施できるように、地域の教育力の向上を図っていく必要があるとの指摘がありました。

最後に、事務職員へ、管理職のアドバイザーとして、チームで教育を支える力になってほしいとの言葉がありました。

### （参加者の感想）

事務職員として、学校教育を支えるには、今の自分にもなができるかも、一度考えてみる必要があるのではないのでしょうか。（長事研役員）

### ＜記念講演＞

総務大臣（当時） 片山 善博 氏

「地域主権時代の教育と学校経営」と題して、講演が行われました。

### 概要

地域主権とは、地域のことは地域住民が責任を持って決めることである。それを補完するのが国である。

地方公共団体の最も重要なのは「教育」であると考えている。教育とは、子どもたちに対して、社会人として自立

これからの日本は、科学技術の振興が重要である。特に再生可能なエネルギーの開発や医療技術の開発をとおして、世界にも貢献できるのではないか。また、文化や芸術は、外国の人々と共感することができる。その振興も重要である。

教育については、鳥取県知事在任中は、少人数学級の導入や学校図書館の充実などに取り組んできた。教育は特に地域主権（前述）が重要である。また、学校の現場では、教員だけでなく、事務職員、メンタルケア、学校図書館司書、栄養、給食、安全対策等の専門スタッフを充実させなければならない。

（参加者の感想）

政治的に大変な時に、講演に来てもらえるとは思いませんでした。地方自治に対する熱い思いが感じられました。（SPにセキュリティの厳しさに、さすがに現職大臣でした。）

<分科会>

第1分科会（熊本支部）

「つなげよう！実践と協働の力」

—教育課程と学校事務を考える—

「つなげよう！実践と協働の力」—教育課程と学校事務を考える—ということで、年次別課題「教育課程の実施と学校事務」に正面から取り組んだ分科会でした。とはいうものの、学校事務の中での「教育課程」の定義といった実践以外の点にもものすごく苦労の跡がありました。学校というのは「教育課程」の編成・実施機関であることから学校事務は教育課程と大きくかかわっている訳ですが、学校事務職員が教育課程に精通している訳ではありません。現時点ではそう望まれてもいないと思います。発表の中では教員との協働による「よりよい授業づくり」のためにはそれなりの知識が必要で、そのための事務研や共同実施の中での研修等が重要だともありました。その一環として授業の参観も有効な手段ではないかとその実践報告があった訳ですが、興味深い内容ではありました。私個人としては、事務職員があまり授業に首を突っ込むべきではないと考えているのですが（もちろん教育活動に関する知識が圧倒的に不足しては話になりませんが）、時代の流れ的にはこうしたある種の力量アップも必要なのかもしれない。いずれにしても良質な「教育課程」の確保は学校または教育界全体が連携して考える案件だと思いました。（長事研役員）

熊本県は、教育課程へのアプローチとして、授業参観という手法をとって「教育課程」を意識した学習環境を整備する課程での「協働」の推進が発表されました。その中で、やはり我々は「カネ」の部分＝財務の専門家でなければならぬ。以前から教育条件整備は、私たちの課題であったような気がします。日々の教材・教具の整備、学校環境整備の実践こそ学校に学校事務職員がいる意味であると再確認しました。カリキュラムと関わらねばならぬ今こそ、益々学校に軸足を置いて学校財務の取組の強化と研究を実践していく必要があると感じました。（長事研役員）

できるようサポートしていくことである。

<鳥取大会に参加して>

行程 約6時間 JR 長崎～（かもめ）～博多～（のぞみ）～岡山～（スーパーいなば）～鳥取

岡山からの特急スーパーいなば（智頭急行線利用）は、なんとディーゼル3両編成。途中の駅で、列車の進行方向が逆向きになるため、自分で座席の方向をかえなければならず、思わず笑ってしまいました。途中、川の流れもいつの間にか日本海へ向かっており、もうすぐ鳥取かあと感じた東の間、「次は終点鳥取です」とアナウンスが入りました。何も無いのだけどと思っていると大きな工場が1つ2つと見えてきて駅へ到着しました。まるでマンションか？と見間違う駅からすぐのホテルへ着き、早速会場の下見へ行きました。会場の「とりぎん文化会館」は、徒歩で約20分、暑くて汗をかきましたが、平坦でよい立地でした。（長事研役員）

特集テーマ「教育課程の実施と学校事務」と、片山総務大臣（当時）の記念講演、それと鳥取砂丘にちょっと興味があり、はるばる鳥取まで行ってきました。日々の事務処理で手一杯な中で、教育課程と条件整備を結びつける事務職員の役割とかカリキュラムマネジメントとかキャリア形成とか、頭の中が？？？でいっぱいになりながら、全日程参加しました。提案されたすべてに納得できるわけではないし、現実的に容易ではないと思いつつ、学校事務職員が学校経営に関わっていく理論付けになるかなと思いました。

ひそかに目論んでいた鳥取砂丘写真撮影は、日程と天候がうまくいかず、陽が沈んだあとの砂丘のシルエットを見ただけで終わってしまいました。それにしても、2000人の全国大会を、鳥取支部200人で準備したとのこと、これはすごい。（長事研役員）



<会報連絡先>

<会報連絡先>長崎市立三和中学校：南部省吾

TEL095-882-2530 FAX095-882-1561